Pl. VII. *Pinus pseudotetraphylla*, sp. nov., no. 73544. A: basal part of preserved three needles in a fascicle. ×19. B: more distal part of A. ×19. C: a part of cross section showing thick hypodermis and undulating walls of mesophyllous cells. ×94. D: another part of cross section showing transfusion tissue whose cells are pitted and fibrous tissue around and between the vascular bundles. ×94. E: vertical section of a needle. ×94. F: vertical section of dwarf shoot. ×15.

Abbreviations. ds: dwarf shoot, e: endodermis, f: fibers, h: hypodermis, ll: layers of large cells, m: mesophyll, n: needle, ph: eroded phloem, r: resin canals, s: stomata, sc: scales, sl: layers of small cells, tt: transfusion tissue, xy: xylem.

*　　*　　*　　*

北海道大夕張及び幾春別の上部えぞ層群から採ったマツ属の葉化石6種を報告した。そのうち4種は新種である。二葉松 *Pinus bifoliata*, sp. nov. は2本の維管束をもち，Jeffrey (1908) が報じた *Pinus* sp. A に似ているが，本種では維管束を柔組織がかこむのに対し，後者では繊維細胞がとりまいているので区別できる。白亜紀の有組織二葉松としてははじめての記載である。三葉松 *P. triphylla* Hollick et Jeffrey は北アメリカから記載されていた。日本新産である。*P. flabellifolia* Ogura (三葉松) は原標本よりも基部に近い部分の化石と思われる。*P. pseudoflabellifolia*, sp. nov. は中央に維管束の代りに厚膜組織条があるので，葉の先端部の化石と思われ，下表皮が2〜3細胞層からできており，1細胞層の *P. flabellifolia* と区別できる。*P. pachydermata*, sp. nov. は三葉松で，今迄記載されたどの三葉松よりも下表皮が厚い (約6細胞層) ので区別できる。*P. pseudotetraphylla*, sp. nov. は今迄知られていた北アメリカ産の4葉松 *P. tetraphylla* Jeffrey (1908) に似ているが，直径が約2倍あり，これは基本組織系の細胞数が多いためである。

---

□馬場胤義 (編)：**佐賀県植物目録** 266 pp. 1982. 佐賀県植物友の会. 非売品. 昭和39年に「佐賀県生物誌植物篇」が出版され，次年に佐賀県植物友の会が発足し，昨年11月には第200回の例会を重ねたという。それを契機にしてこの本が生れたが，数度にわたる発病にもかかわらず，編集に邁進された馬場さんの労は大変であったと聞いた。本書は県下の自生種2,068種のリストであるが1964年のものより1割も種数が増えているのは驚きである。それに，近頃の急な流行ともいえる各種についての主な標本の産地や日付が網羅されているのも一つの刺激になるであろうし，各種ごとに○印を附して述べられた短文が中々要を得て急所をついているのもありがたい。　(前川文夫)